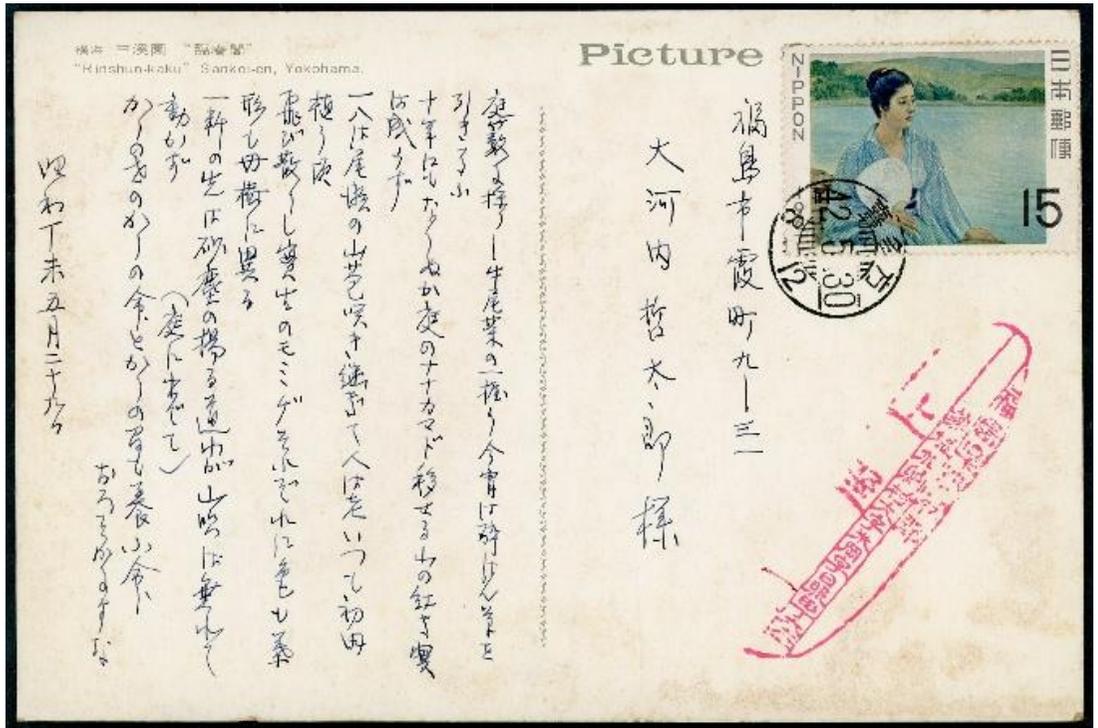


趣味週間「湖畔」貼りの大型絵はがき

永吉 秀夫



大型絵はがき(定形書状扱い) 喜多方 S42(1967).5.30

今もそうであるかは知りませんが、昔の観光地ではさまざまな絵はがきが販売されていて、その中には普通のはがきの倍以上もある大型サイズのものがありました。紹介品もそんな絵はがきで、裏面には横浜・三溪園の「臨春閣」が描かれています。その絵はがきに1967年趣味週間「湖畔」を貼って差し出しています。差出地は福島県喜多方、宛先も福島市で絵はがきの図案とは関係ありませんが、時候の挨拶がしたためられています。

この絵はがきは横18.5cm、縦12cmという大型サイズなので、葉書として差し出すことはできず、書状額面の趣味週間切手を貼って差し出しています。ただし厳密に測ると縦寸は12.2cmほどあって定形郵便の最大幅12cmを超えています。本当は定形外料金25円が必要だったはずですが、お見逃しで送達されたようです。

たぶん差出人は気づかずにこの15円切手を貼ったのでしょう。もしかするとこの切手の下には、葉書用7円切手を貼って出さないように、「15円切手を貼ってください」という注意書きがあるのかもしれない。

今も昔も趣味週間切手は国内書状料金の額面で発行されていて、使用例収集では1枚貼り書状が基本となりますが、どの年も似たような形状の封筒が並んでいるとうんざりしないでもありません。そんなときにこのような大型絵はがきでリーフを飾るのも悪くありません。絵はがきの宛名面に少しシミが出ているのが気になりますが、贅沢は言わないことにしましょう。